イベント会場等におけるガソリンの貯蔵・取扱い時の留意事項

ガソリンを使用する場合は、十分な注意が必要です。

○ガソリンの特性

- 引火点は－４０℃程度と低く、極めて引火しやすい。
- 揮発しやすく、その蒸気は空気より重いので滞留しやすく、着火しやすい雰囲気が広範囲にわたる。
- 電気の不良導体であるため、発生した静電気が蓄積しやすい。

○貯蔵・取扱い時の留意事項

- ガソリンを取り扱っている周辺で火気や火花を発する機械器具等を使わないようにしましょう。
- 静電気による着火を防止するためには、金属製容器で貯蔵するとともに、地面に直接置くなど静電気の蓄積を防ぎましょう。また、消火器を必ず準備しましょう。
- ガソリン容器から蒸気が流出しないように、容器は密栓するとともに、ガソリンの貯蔵や取扱いを行う場所は、火気や高温部から離れた直射日光の当たらない、通風・換気の良い場所とすることが必要です。特に、夏期においてはガソリンの温度が高くなり、蒸気が発生しやすくなります。
- 取扱いの際には、開口前のガス抜きの操作等、取扱説明書等に書かれた容器の操作方法に従い、こぼれ・あふれ等がないよう細心の注意を払いましょう。万一流出させてしまった場合には少量であっても回収・除去を行うとともに、周囲の火気使用禁止や立入りの制限等が必要です。衣服や身体に付着した場合は、直ちに衣服を脱いで大量の水と石けんで洗い流しましょう。
- ガソリン使用機器の取扱説明書等に記載された安全上の留意事項を厳守し、特にエンジン稼働中の給油は絶対にやめましょう。
- ガソリンを４０リットル以上保管する場合には、消防署への届出等が必要となります。

ガソリンの貯蔵に適した容器の例

（金属製容器であることが必要）

ガソリンの貯蔵に適さない容器の例

（樹脂製容器は火災危険性が高い）

火気器具（こんろ、鉄板焼き等）の取扱い時のチェックポイント

使用開始する前に必ずチェックし、使い終わるまで確実に守りましょう。

チェック項目		チェック欄
１	火気器具とダンボールや油等の可燃物とは、安全な距離を確保し、不燃性の台等の上で使用する。	
２	地震等により可燃物が落下、接触しない場所で使用する。	
３	避難の支障とならない位置で使用する。	
４	ガソリンやプロパンガス等の可燃性のガスが滞留するおそれのない場所で使用する。	
５	地震等により容易に転倒・落下しない安定した状態で使用し、使用中に燃料補給したり、持ち運ばない。	
６	周囲は常に整理整頓し、可燃物を放置しない。	
７	ゴムホースは器具との接続部分をホースバンド等で締め付けるとともに、適正な長さで取り付け、ひび割れ等の劣化がないかを点検する。	
８	水バケツ等の消火用具を適切に設置する。	
９	プロパンガスボンベを使用する場合、直射日光の当たらない通気性の良い場所に設置し、転倒しないよう鎖等で固定する。	
１０	火気器具の使用中は、その場から離れない。	